2021年5月11日（木）

地域の人や社会等との
つながりの重要性について

東洋大学社会学部教授　高山直樹

津久井やまゆり園友達プロジェクト　リーフ（LEAF）

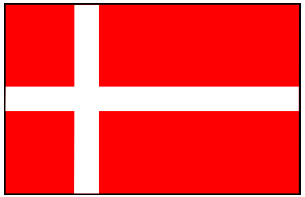
虐待や権利侵害に対しての表明
どうして？（当事者からの声）

- どうして、かってに私のことをきめるの？
- どうして、子どものようにあつかうの？
- どうして、話をちゃんと聞いてくれないの？
- どうして、上から目線になるの？
- どうして、この仕事を選んだの？

意思を
尊重して
ほしい！

- 「ぼくたち、わたしたちは、職員がすること、思うことを見てどうするか考える。職員はちゃんとしてほしい、混乱するようなことはしないでほしい」『人間としての尊厳・5章（４）』

（1985）スウェーデン社会保険庁



ノーマライゼーション（Normalization）

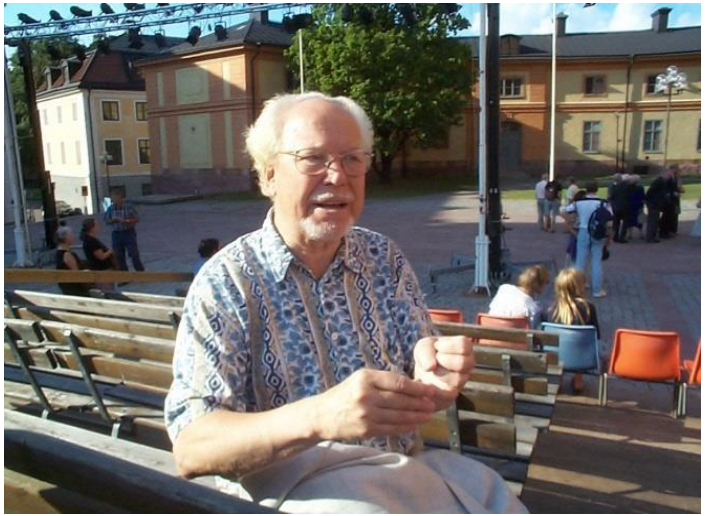
- 「1959年法」（デンマーク）に規定されているように、「知的障害者のために可能な限り、ノーマルな生活状態に近い生活を創造する」という精神が基調。
- N.E.バンク－ミケルセンは、「ノーマライゼーションとは基本的には種々のドグマ、特に何世紀もの間、知的障害の人々を困らせてきた保護主義に対する攻撃であった」と主張。彼はナチスの収容所での体験と入所施設が同様のものであることに言及。
- B.ニィリエ「知的障害者の日常生活の様式や条件を社会の主流にある人々の標準や様式に可能な限り近づけること」と定義した。その具体的な目標である、ノーマライゼーションの８つの原理を提示し、障害者の権利として保障される必要があることを強調。

B.ニィリエ（ノーマライゼーションの8つの原理）

「日本の知的障害者施設は、スウェーデンの30年前の精神病院よりひどい、利用者が〇〇〇〇できない構造だ（1997）」

- １日のノーマルなリズム
- １週間のノーマルなリズム
- １年間のノーマルなリズム
- ライフサイクルでのノーマルな水準
- ノーマルな要求の尊重（自己決定）
- 異性との生活
- ノーマルな経済的水準
- ノーマルな環境水準

（ベンクト・ニィリエ氏
スウェーデン・ウプサラ 2001）



障害者の権利に関する条約
（2014年2月19日効力）

第17条：「全ての障害者は、他の者との平等を基礎として、
その心身がそのままの状態で尊重される権利を有する。」
（integrity＝不可侵性）

人としてあたり前の生活の保障

「私たちのことを私たちぬきで決めないで！」
（Nothing about us,without us!）

意思決定（支援）・人生の主人公

医学モデルから社会モデルへ

- 「医学モデル」：障がいのある人が、困難に直面するのは「その人に障がいがあるから」であり、克服するのはその人や家族の責任だとする考え方　→　訓練・指導・教育

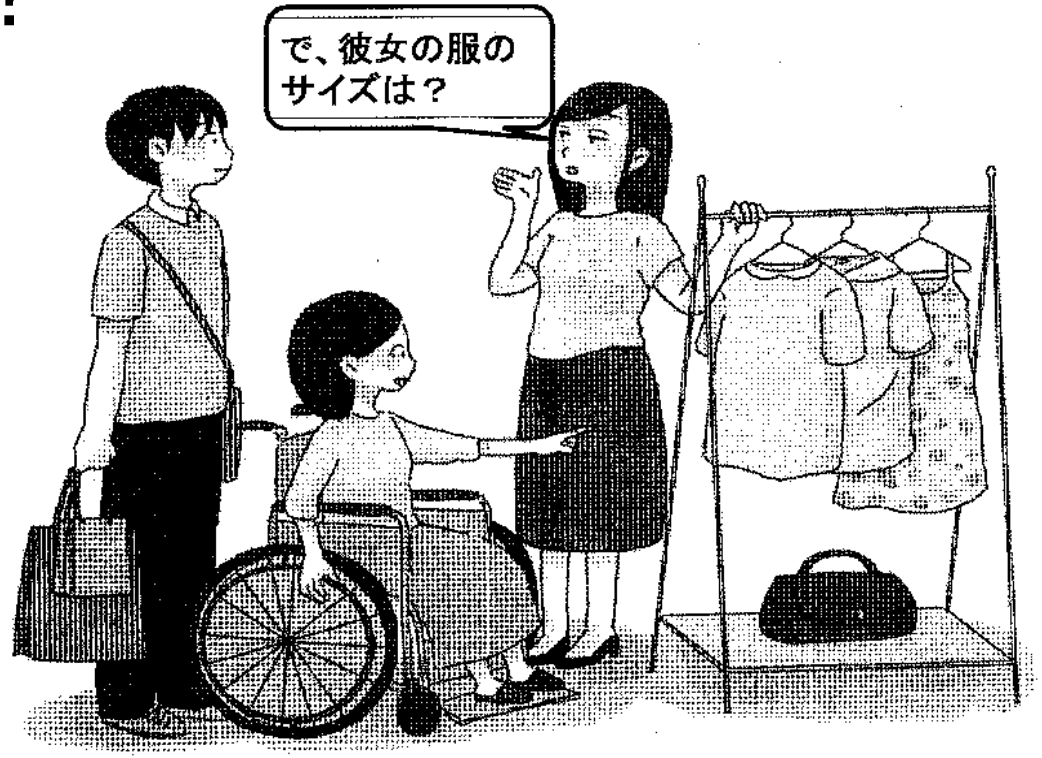
それに対して

- 「社会モデル」：「社会の側が『障がい（障壁）』をつくっており、それを取り除くのは社会の責務だ」とする考え方

→　バリアフリー・環境調整

◇社会モデルとは？

何か問題は
ありますか？



22
© Kenji Kuno

出典：久野研二編著「社会の障害を見つけよう」現代書館

意思決定支援を構成する要素

- 意思決定の前提となる環境要因へのアプローチ
- 実際に意思決定を行う際の支援方法

①わかりやすい情報提供

②意思表出支援（安心、自由、解放、正直）

③チームアプローチ

④弱い紐帯の必要性（友人、活動、第3者）

④何でも言える信頼関係、失敗できる環境設定といった配慮面

⑤結果のフィードバックによって、成功体験（表出した意思がわかってもらえた、その通りになった）や失敗体験（思い通りにはならなかったけど自分で決めた）の積み重ねが必要

意思表出支援・環境づくり

意思表出支援

- 「弱い紐帯」の強み：マーク・グラノヴェターが発表した仮説であり、新規性の高い情報は、自分の家族や親友、職場の仲間といった社会的つながりが強い人々（強い紐帯）よりも、知り合いの知り合い、ちょっとした知り合いなど社会的つながりが弱い人々（弱い紐帯）からもたらされる可能性が高い。
- 強い紐帯：家族・職員・教員・行政などの専門職
- 弱い紐帯：友人・ボランティア・活動（音楽・スポーツ・芸術）

強い紐帯の関係性では、自立は危うく、意思表出が限定的となる。弱い紐帯が意思表出を促進し、強い紐帯にも影響を与える

大切なのは居場所づくり

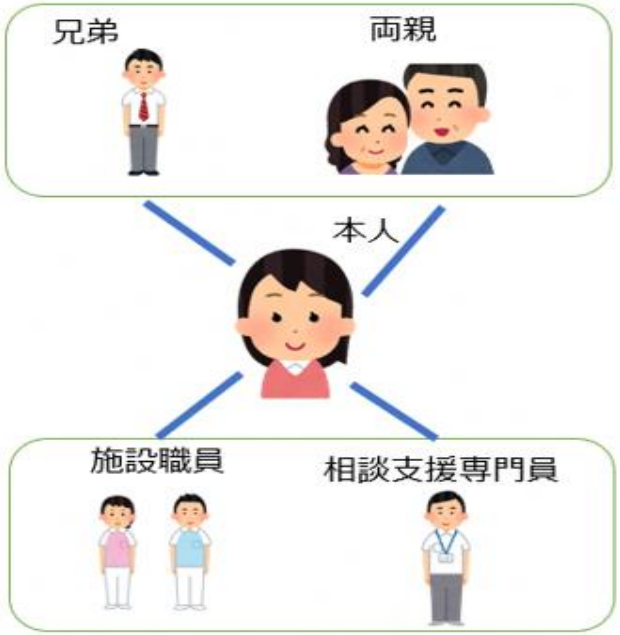
- 物理的居場所（安心・安定・安全）
- 関係的居場所（対等・承認・つながり）
- 存在有為的居場所（影響・主体・役割）
- ○○○○的居場所（自由・楽しい・行きたくなる）

共生→共に生きる→○に生きる→○に生きる

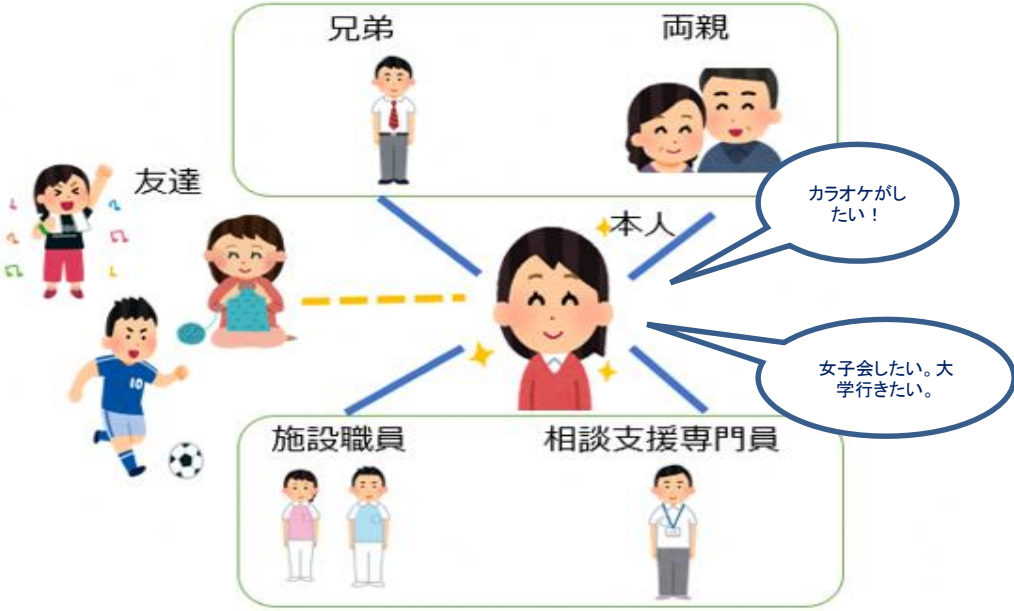
津久井やまゆり園友だちプロジェクト：「リーフ（LEAF）」

お友だちプロジェクト　LEAFの目指す活動

入所施設の利用者



LEAFのメンバーと友達になった利用者



限られた関係性の中のみでの生活環境は身近な支援者の影響に依存しがち。
友だちの介在が「外の風」となり、本人の意思表出できる環境になる。

LEAFに込められた意味

Liberty …自由

Empowerment…エンパワメント

Advocacy…代弁

Friends…友達の輪

Leafは「葉」という意味です。

形や大きさが違くても同じ枝にまとまっている「葉」とこのプロジェクトで仲良くしていきたいという意味を重ねました。

キーワードは意思決定・意思表出・意思形成

意思決定支援とは

- 私たちは意思決定支援を行う前に以下の2つのことに意識をして利用者の方と交流をしています。

1.利用者の方が意思を表出しなければ意思決定につながりません。そのため、意思表出ができるような支援を目指しています。

2.利用者の方が意思表出をするためには意思を形成できるような環境を作ることが大切です。そのため、意思形成ができるような支援を目指しています。好きなこと、関心があることに焦点をあてて、話をします。自分自身の好きなこと、関心があることを伝えます。そして共通のことを探します。

活動概要

- 現在学生メンバー　**13名**
  (社会福祉学科の学生中心)
- 4グループに分かれて活動中

- 2019年6月発足
  10月-　活動開始

- 2020年4月-コロナ禍でのオンライン交流・
  手紙・ビデオレター

本日はAさん・Bさん・Cさんとの交流を紹介